

私の突破「その時の空・・・」

◎高村 好実¹⁾一般社団法人 日本予防医療推進機構¹⁾

本学会にご参加いただいた皆様、誠にありがとうございます。学会主催者を代表し心より感謝を申し上げます。

そして、この度、学会長として皆さんへお話をさせていただく機会を頂きました。臨床検査技師会会員として沢山の方に育てていただいたこれまでの37年間に感謝し、その御恩をこれからの社会を担う会員の皆様へお返しする思いで、学会の場を借りて熱いお話をクールにさせていただきたいと思えます。

今、日本は労働力人口減少からの社会構造改革が進められています。医療は地域完結型で医療・介護にDX（デジタルトランスフォーメーション）が組み合わせられ、PHR（パーソナルヘルスレコード）での検査データの提供、オンライン診療などが進んでいきます。

現在、検査技師領域も仕事は施設内が中心ですが、ICTを利用したネットワーク化によりデータは外部で共有化されていきます。多くの臨床的価値を見出して診断に寄与する院内臨床検査技師に加え、ヘルスケア全般に精通するDX人材も各地の臨床検査領域にも必要とされる時代です。

本学会のテーマは、「突破」～社会を支える技術と人間力～。

このテーマを考えられた方は、先述した臨床検査技師の将来像へ向けたあるべき姿への思いと必然性そしてチャレンジを表現されていると思えます。

そのテーマの「突破」を私なりの解釈したとき、社会を支える“技術”の突破は、皆さんが日頃より業務において研究などされている検査技術の知見やその情報であり、これが医療技術分野の検査の最前線での「突破」ということになります。そして、社会を支える“人間力”の突破は、病院や検査施設、行政や学校などで社会を支えている“検査技師の皆さんの力量”そのものが「突破」となります。ちなみに突破とは、突き抜けて破ることを言います。

今回、その人間力の中でも、私は根本にある“負けないこと”と“やればできる”を私の突破「その時の空・・・」というテーマでお話したいと思えます。

私は40年間で4つの病院の検査室に勤めてきました。よってキャリアは病院がベースで、社会人基礎力も医療分野で備わってきました。しかし、医療の世界のみでない違う世界が見たいと若いころから願っていた私は、“あるきっかけ”によりそのタイミングが訪れて、大学院で社会人必須のビジネススキルを学びMBAとなりました。毎週東京に2年も通う・・・その理由の一つが、私にはこのタイミングしか夢を叶える時間が残されていなかったからでした。

“その時の空”は、今までの出来事が目を閉じた臉に映った空の景色です。今回お伝えしたいことは、いつまでも夢を追いかけて、つらいときは大きな空を見て負けないでほしい。ということです。

客観的ではありますが、臨床検査技師の方は何事にも真面目な方が多く日々懸命に仕事に努力をされている姿があります。そのような姿勢で、臨床検査技師としてのキャリアプランを進めながらも、同時に自分の人生のキャリアデザインの夢を描き、その時が来たら迷わず行動してもらいたいと願います。私の実感は、夢に向かい熱量を持って行動することによって、自分を取り巻く人脈や環境は今までと異なるものになっていく。まずは、できない理由を探すよりも、できる要素を探すこと。やってみれば結構できるものです。ただし思いの熱量は必要です。

学会テーマの「突破」～社会を支える技術と人間力～は、明日から9年後まで“愛媛県臨床検査技師会のミッションステートメント”に掲げて組織のインナーブランディングに取り組んでみても楽しいかなと思えます。そして、中四国支部会員の皆さんも、各学会で掲げられる素晴らしいテーマを学会で終えることなく、県技師会や個々の目標に繋げてもらえば中四国支部学会も喜ぶと思えます。大きな空の下でみんな頑張りたいと思えます！